

昭和41年9月5日
発行所 徳地町役場
発行所 徳地町役場
編集者 桑原雅夫
印刷所 今谷印刷所



お知らせ

国民健康保険税 (3期)

納期限 9月30日限

米価きまる

昭和41年産米

Table with 5 columns: 景目, 等, 9月30日迄, 10月1日-10月11日迄, 10月12日-10月21日迄, 10月21日以降. Rows include玄米正味60kg, 包装代, かつ米, もち米, 酒米, 堆積, 旭1号, 中生旭.

予約申込数量はもとより、いまでも多く売込みができるよう、今後の肥培管理にご努力をお願いします。



徳地町もかなりの豊作

われわれの今日の生活は、速い過去より未来へ無限に発展してゆく人間生活の一断面図である。したがって、明日の社会を立派にし、日々を幸福に生かすには、まず、町民の役割をふんずけることである。...

「ふるさと」である。那里的製度が確立する以前の地方行政は、国造りによつて統治、支配されていた。大化の改新(六四五年)によつて、国郡制度が確立し徳地町は、周防国佐波郡に属する日置郷(出雲、八坂、柚野) 余戸郷(島地、雲、八坂、柚野) 余戸郷(島地、雲、八坂、柚野) 余戸郷(島地、雲、八坂、柚野)...

その大きな寺院勢力を背景として特殊な発展を遂げるに至った。東大寺は治承四年(一一八〇年)12月28日、大和方面に蜂起した源氏を討伐するために、奈良に出陣した、平重衡の兵火にかつて全焼してしまつたが、その後五年、文治元年(一一八五年)の春に至つて平家の一族は長門の壱の浦に滅び、源氏の覇権が確立したので、その翌年(文治二年)後白河法皇のご教諭で東大寺の再建となつて、そのとき大勳進俊兼坊重源が国防の国管管理となつて下向した。この地方は得地郷と呼ばれて東大寺造営用材主要取地とされ、佐波川を開発して山から多くの良材を伐出しては奈良へ送つた。この時の如きは、下得地八坂村の内であつたらうか。東大寺造立供養記に木津より海に至り七里と見えてゐる。入国後十一年目の建久六年の三月に竣工の大供養が修せられた。その間には東大寺用材の伐り出しに妨害を加ふる地頭や家族を抑えるに百万苦慮しながらも國政に勞して民を撫で一方にお寺やお宮を再建した。東大寺の再建は、この地に多くの史跡と俊兼坊重源に関する多くの碑を現しているように、同じ佐波郡にはいへ海部郡(防府市)は早く開けたのに反し、山間部(徳地町)は後れてはいたが、この時期に飛騨の発展を遂げたのである。重源が八十三才をもつて入寂後は、代々僧侶が國管管理となつて鎌倉時代を終り、後醍醐天皇中興以降守護、家族の権力が増強し戦國時代に入る。

17回近代農業展示会

期開、9月27日(29日)(3日間)
場所、山口県農業試験場(大内)

主催、県米穀生産近代化推進本部
会期、9月27日(29日)
場所、山口県農業試験場(大内)

農機実演研修会
9月27日
省力機械実演展示 9月27日

農機実演研修会
9月27日10時~12時
参加者、一般農家ならびに農村青少年で現に農業に従事しているものうち、山口病害虫防除所長が推

せんしたも

◎田植機、稲刈機の実演展示
日時、9月27日 13時~16時
9月28日 9時~17時
9月29日 9時~12時

稲刈機
日時、9月28日 15時~17時
9月29日 10時~17時

農機実演研修会
9月27日
省力機械実演展示 9月27日

農機実演研修会
9月27日10時~12時
参加者、一般農家ならびに農村青少年で現に農業に従事しているものうち、山口病害虫防除所長が推

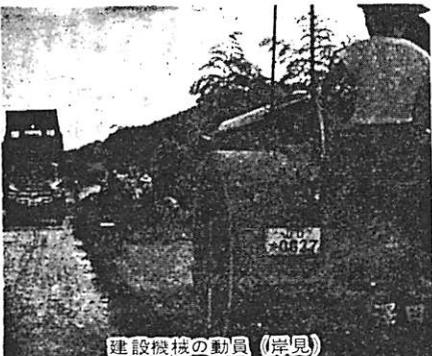


特集 徳地の道路

身近かな道に協力を

住民の生活をよくするためには、災害を初き交通を便利にして産業を発展させるなどいろいろの問題があり、なかでも道路をよくすることは、何よりも先に行われなければならない。今、全国どこでも道路を造る、この言葉がびつたりするほど道路をよくすることが急いで進められています。どこを旅行しても見られる、ものすごい道路工事、あたらしい建設された立派な立体的道路、しかしまだ、どこでも町はずれに行くところもひどいのでこぼ

他方、奥地(へき地)の道路整備費も予算に計上されているとはいへ、ここ徳地町の道路はどうでしょう。
がせにできない事業であつて、県や町に於いては道路整備に重点が置かれ、徳地町にもいままら一年後にには夢のハイウェイが誕生する。(カーブは多いが、名付けて徳地高速道路?)
か、防府と徳地の中央を結んで約20キロメートルでこは道と少しは早くなつてその間30分たらずで結ばれることになるでしょう。

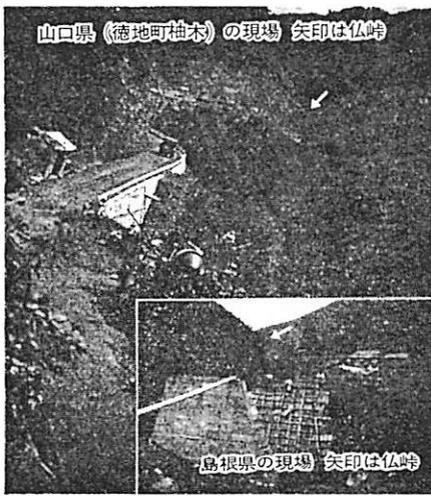


建設機械の動員(岸見)

それを昭和文化和の道にしようといふ建設の意気のみはすまじい。
一方、奥地をと

おる道路は田舎みちの代表的なもので、この開発には地域の発展にプラスになるように全力をあげると共に、今後これらの道路をどう生かしていくかが問題と思われ

ける恩恵、それが第一条件である。現在、基幹林道として、徳地町 柚木より島根県鹿足郡柿木村中河内まで(仏峠)約一万三〇〇メートル(巾員四メートル)の新設工事が進められています。
この林道の効果は林業上大きいばかりでなく、山村の経済基盤の拡大、交通網の整備によつて、約三、〇〇〇ヘクタールの未開発林の木材が搬出でき、そのほか七部



山口県(徳地町柚木)の現場 矢印は仏峠

島根県の現場 矢印は仏峠

町のあいまし

(1)

わが住む徳地町は、豊かな水と山に恵まれ、佐波川は徳地文化の母胎である。町の歴史は古く、大古、上古のことは文献の微すべきものがないが、各地より弥生式文化の遺物が見出し、相当大古より人類が住み、町民にとつて文字とありの

河野 正 No.1

明峯寺殿開白藤原道家九条家の荘園となり、上得地と称せられるようになり、日置郷は「下得地」となつた。ここにはじめて、得地「とくち」の名が生まれた。
「とくち」は直接の管理者である、九条家の得分の地という意味から称せられたという意と、この地に物産豊かな意と出たものともいふ、「とくち」の「とく」が、現在の「徳地」の「徳」に変わつたのは徳川時代の初期である。若しこのままの初期が続いていたら、徳川時代は「とくち」の「とく」が、現在の「徳地」の「徳」に変わつたのは徳川時代の初期である。若しこのままの初期が続いていたら、徳川時代は「とくち」の「とく」が、現在の「徳地」の「徳」に変わつたのは徳川時代の初期である。...

